

郡山市で発生した主な災害

東日本大震災



平成23年3月11日14時46分に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震(東北地方太平洋沖地震)が発生しました。この地震により、宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強など広い範囲で強い揺れを観測し、大きな被害が出たほか、太平洋沿岸を中心に高い津波が襲い、特に東北地方から関東地方の沿岸では甚大な被害となりました。

また、東京電力福島第一原子力発電所では、地震と津波により、大量の放射性物質の放出を伴う重大な原子力事故が発生し、周辺一帯の住民が避難生活を余儀なくされる状況となりました。

郡山市においても、震度6弱という大きな揺れを観測し、建物等に多くの被害が出たことに加え、原発事故に端を発した原子力災害により、市民生活や本市の産業・経済に大きな影響を与えました。

【主なデータ】 (平成27年12月28日現在)

全壊	2,455件	避難所開設	105箇所
半壊	21,712件	最大避難者	10,013人

昭和61年8.5集中豪雨

昭和61年8月4日から5日にかけて福島県中通り、浜通りを襲った集中豪雨で、通称「8.5水害」とも呼ばれています。郡山市の降り始めからの総雨量は206mmに達し、市内全域に大きな被害をもたらしました。特に阿武隈川の支流である谷田川と逢瀬川の堤防が決壊し、2名の尊い命が失われたほか、郡山市中央工業団地や水門町を中心として、阿武隈川、谷田川、逢瀬川流域の地区では大きな被害が発生しました。



【主なデータ】

床上浸水	1,321件	避難所開設	12箇所
床下浸水	1,386件	最大避難者	1,199人

令和元年 東日本台風

令和元年東日本台風(台風第19号)は、10月12日19時前に静岡県伊豆半島に上陸し、強い勢力を保ったまま関東地方と福島県を横断し、宮城県沖に抜けました。この台風により関東から東北の広い範囲で、暴風や記録的な豪雨となりました。郡山市でも10月12日からの総雨量が284.5mm、阿武隈川阿久津の水位が10.0mを越えたほか、逢瀬川、笹原川が越水、谷田川、藤田川が決壊し、6名の尊い命が失われました。

この台風による大雨により、本市では初めてとなる大雨特別警報(警戒レベル5相当)が発表され、被害は昭和61年の8.5水害をはるかに越え、阿武隈川沿いをはじめ、甚大な被害を受けました。



【主なデータ】 2020.12.21現在

床上浸水	6,814件	避難所開設	42箇所
床下浸水	929件	最大避難者	3,973人

郡山震災アーカイブの公開について

東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故の記録や記憶を風化させることなく後世に継承するため、これらに関する記録や資料を収集し、約54,000点のコンテンツをインターネットで公開しております。



郡山震災アーカイブ

検索